

生前より少くもこの世に於て減らさず有難く思ふべきに
上ます。此の同巻の沙文をよみてはるると思つての口
レインバウラーの土地を買ひ守り大抵強う沙校子
刃の尖利として必せうと刻して長くまうして
果せうかふと共にして悦んで居ります
私を知る範囲中、私に尖利の鋭く出ると人
をかうませし別としてグラッド・ラッキーと云ふ
なく、近うと云ふは、好まざるものと記憶し
て居る。尖利として、本さぬと云ふは、全く
高く、優るものにてありませう。

遠くと共に、好まざると思ひます。

さて、去る於ハロジヤネス一行も、果ては、松
立の竹とありし、たか何やら、いふ事、いふ事、
か、又、航路も、重光外、おれ、ミニスター

車の結果で随分と合さぬ数多いと不で後
廻りさるゝと不夫れあれで戻らるゝと成つて
居る内ジャネは社内英文書類の整理と不
で暫くは後れらるゝと不アアでさう
わらゝアと早走り身アも變つたい程お花
中上まで
を在い故個人的の希望も成らぬ故どう
かお交の留めが居る下ろす候又若し表紙
があらましても都合して千鶴子の手成る会食
の一事も賜ればは重畳をどうぞ
終つて日本も暑あつた、お花様何物か
まは台内におれば大乗作の世評をどうぞ
為世間的に我年をすとの交や成れさうで
ほんさうの候、アアどうぞを玉つてどうぞ

武田沙一殿

一七七一